

平成26年度

施設事業計画書（案）

障がい者支援施設
南幌めぐみ学園

目 次

基本方針.....	2
事業計画	
1. 運営方針.....	3
2. 支援方針.....	3
3. 支援内容.....	4
4. 日中活動支援.....	4
5. 保健衛生支援.....	6
6. 栄養管理・支援.....	7
7. 余暇支援.....	10
8. 地域生活移行にむけての支援.....	10
9. 事故防止と安全対策.....	10
10. 職員研修.....	11
11. 職員会議、支援員会議、個別ケース会議、ケア会議・給食会議の開催.....	11
12. 地域交流の推進.....	11
13. ボランティアの開拓と育成.....	11
14. 防災計画.....	12
15. 職員研修計画.....	13
16. 日課表.....	16
17. 生活支援.....	17
18. 年間行事計画表.....	19

基本方針

1. 昨年4月より「障害者自立支援法」が「障害者総合支援法」となり施行された。

しかし、実質的には本年4月より、重度訪問介護の対象拡大、ケアホーム・グループホームの一元化、地域移行支援の対象拡大、地域生活支援事業の追加などが盛り込まれ、「障害程度区分」が「障害支援区分」となり認定がより障がいの特性に応じておこなわれるようになる。

平成26年度は、これら新法に基づき各事業の充実を図り、ご利用者のニーズに応じた支援を展開していく。

ご利用者支援においては、「地域生活支援」と「施設ご利用者の権利擁護」の視点を堅持し、ご利用者一人ひとりのニーズを第一にご利用者の自己選択・自己決定に十分応えることができるよう、より個別で充実したきめ細かな支援を行ないサービスの質の向上に努めていく。地域・在宅者のニーズに応え、日中一時支援事業・短期入所事業を継続して行っていく。

2. ご利用者の意思及び人格を尊重し、自己決定、健康管理、機能訓練など、個別支援サービス計画に基づき適切なサービスを提供する。個別支援サービスを効果的に推進するため保護者・ご家族の意向を十分反映させていくとともに、相談・協力が得られるよう連携を密にする。また、刻々と変化する福祉動向や情報に対し個別面談・三者面談を継続的に行う。めぐみ会との合同研修会・懇談会を実施しご利用者本人・保護者との情報交換をすすめていく。

3. なんぼろ就労生活支援センター「かよえ〜る」をさらに効果的に活用し、地域生活支援サービスの拠点としてその機能の充実と拡充をはかるとともに、ご利用者の職住分離の意識を高め、作業スペースの拡大など効果的な設備利用をはかり生活環境の整備をすすめる。

4. 地域交流の場や地域に根ざした活動展開の一環として、福祉の店（クッキー作り・コーヒー宅配など）を活用し地域活動の拠点づくりを目指す。

5. グループホーム「ハイツひまわり」や自立訓練支援センター「ふれあい」の設備と機能を利用して地域生活経験や宿泊訓練などに取り組み、ご利用者本人の主体性を尊重した支援を行う。今後もご利用者・保護者の希望を取り入れながら、新たなグループホームの開設準備を積極的に進め、地域生活移行への支援を強化する。

事業計画

1. 運営方針

- 1) 施設入所支援は、施設に入所するご利用者の夜間帯において、入浴、排泄、食事等の介護及び相談、助言等のほか、社会生活上の便宜の供与、その他の日常生活上の支援、機能訓練、健康管理及び療育上の支援を行う。ご利用者がその有する能力に応じ、充実した日常生活を営むことができるよう努める。
- 2) 生活介護事業は、ADLの低下や自閉症等に起因する行動障害など、身体・精神面で常時介護を必要とするご利用者に対し、安全で豊かな日常生活を営むことができるよう、地域や家庭との結び付きを重視し、市町村、居宅サービス事業者、その他の支援施設、保健医療サービス、福祉サービスの提供者と密接な連携に努め、個々のご利用者に十分配慮した支援を行う。また、創作活動や生産活動の機会の提供、外出や行事、レクリエーション等の参加など日中活動の更なる充実を図る。
- 3) 就労継続支援B型事業は、ご利用者の自立支援を推進するために、地域での様々な職場実習支援及び福祉の店を展開しながら、生産・販売活動を通じてご利用者の作業能力向上と地域生活への意欲を高める支援を行う。

2. 支援方針

1) 目的

人間としての生活をより自立させるための日常生活習慣の確立を目指すと共に、人が人なりの社会生活、日常生活を営んでいく上で必要な能力やマナー、生活習慣などを身につけより豊かな人間性を培う。

2) 個別支援計画

ア) ご利用者一人ひとりの特性や現状・生活環境等を総合的に把握分析し生活課題を明確にしたうえで、ご利用者・ご家族の意向に沿ったきめ細かな個別支援計画を策定し実施を行っていく。また、期間ごとにモニタリングと見直しをかけ、生活の全体性と個別性のバランスをはかりながら生活習慣の確立とより豊かな生活環境の実現を目指す。

イ) 日常生活を送るうえで、日常身辺処理の自立は、人間らしく成長し

ていく上において必要なものである。

朝の着替えに始まり、挨拶、布団上げ、洗顔、歯磨き、食事、排泄、入浴、就寝など一日の流れの中で基本的な生活習慣を確立していく。

また、障がいの重い人にとっては、これらを身につけていくことそのものがその人の発達成長のひとつである。

ウ) 社会生活を営むうえで必要な礼儀節度、技能等を身につけることも重要であり、そのためにはご利用者自身の情緒の安定と楽しい生活環境づくりが必要である。一日の生活の流れの中で学習、日中活動、余暇支援、各行事等を通じて、集団の中での役割をもたせ、好ましい人間関係を形成し、自己抑制、けじめある生活、社会的礼儀節度、協調性、自主性、責任感を養う。

3. 支援内容

1) ご利用者にあった（日中）活動を見出しつつ、能力に応じた支援を行い、学習や活動への意欲を大切にし自立心を養う。

2) ご利用者自身が主体的に取り組むご利用者同士の関わりを大切にし、共同生活のきまり事、ご利用者同士の協力・責任を習得することにより社会性の向上に努める。

3) 一泊旅行・観戦鑑賞ツアー・果物狩りなどの外出の機会を通し社会的礼儀や地域文化と接することにより豊かな人間性を養う。

町内行事、園内外の清掃など様々な経験を通じて、経験と人と関わる楽しさ、地域の一員としての貢献等を体感してもらう。

地域社会の人々とのふれあいを通じて障がい者への理解と協力を求め、社会福祉への啓蒙を図ろうとするものである。

4. 日中活動支援

1. 生活介護事業

食事の提供及び、食事・歯磨き・入浴・排泄などの身体介護、社会参加の支援、日常生活の相談支援など日常生活全般にわたる支援を行う。

1) 紙器加工

生産活動を主体にした生活支援

札幌市内、江別、岩見沢等の印刷紙業会社やパッケージ流通会社委託

作業である容器のシール貼り、ビニールパック詰め、菓子詰め、ギフト商品、箱の組立等に取り組む。

2) 生活訓練

日常生活習慣の理解を深める支援（洗顔・身だしなみ・洗濯・居室整理など）を日中活動の中に組み込んでいく。また、身体機能の維持回復や健康・体力の維持増進にむけて歩行訓練（ウォーキング等）の取り組みを行なう。情緒の安定にむけて利用者の興味ある製品・作品づくりに取り組む。町内企業からの下請け作業をグループで行いながら作業意識の向上をはかる。

作業品目

和紙工芸品、アクセサリ等の工芸品

ししゅう、刺し子、編物など布製品、ちぎり絵、絵画作品

下請け作業、機能回復訓練、ウォーキングなどのグループ活動

3) 農産

日常生活習慣の理解を深めていけるよう支援をおこなう。屋外の活動として、学園前庭の草刈や花壇の花植え等環境整備と、畑ではミニトマト、じゃがいも、人参、カボチャ、豆類などの野菜等をご利用者の希望も取り入れながら作り、作物が育つ過程の楽しさを体感してもらう。また、冬期間はペーパークラフト・手芸品等の製作に取り組む。

2、 就労継続B型事業

1) 職場実習

◎長期職場実習

ア) (株)スリービー・・・・・・・・タモギダケの収穫等。

利用者 女子 3名 男子 1名

イ) (株)さとう自動車工場・・・・タイヤ交換、板金塗装等。

利用者 男子 1名

◎委託作業 セブンイレブン・・・・ゴミの分別作業

利用者 女子 3名

2) 福祉の店

クッキーなどの焼き菓子づくり、イベントでの喫茶出店、会議等へのコーヒー、クッキーなどの委託販売、宅配サービスなどに取り組む。

3) 職場実習先の新規開拓について

地域生活移行に伴う就労継続支援の拡大・充実をめざし、職場実習先の新規開拓が引き続き重要な課題となる。

職場実習の実績経験のある事業所のほかに、ハローワークとも連携して積極的に新規事業所の開拓に取り組む。

5. 保健衛生支援

1) 目的

「すべての国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」
(日本国憲法第 25 条 基本的人権より)

健康は、すべてに優先するものであることを根本に、各ご利用者の健康に配慮し、その保持増進に努める。日常生活のあらゆる場面で病気や危険を防止し衛生的で文化的な生活を支援することを目的とする。

2) 健康教育

生活懇談会（医療・栄養の相談支援）を開催し、日常生活に必要な正しい知識の普及に努める。

3) 疾病の早期発見・早期治療

健康診断・検診を行い、早期発見に努め、要精検者は確実に受診し適切な治療を支援する。(随時ご家族へ報告する。)

全ご利用者対象	身長・体重・血圧測定	毎月 1 回
	口腔検査	毎月 1 回
	健康診断	年 2 回
	BMI チェック	年 2 回
35 歳以上 (男女)	胃がん検診 (ヘプシーゲン採血)	年 1 回
	大腸がん検診	
	(検便・検査可能な利用者)	年 1 回
30 歳以上 (女性)	乳がん・子宮がん検診	
	(拒否せず検査可能な利用者)	隔年
	骨密度検査	随時
職 員		年 2 回

4) 治療・看護の継続

通院の必要ながご利用者は適切に受診できるよう支援し、主治医の指示を受けたのちには、治療が円滑にすすむよう日常生活の改善を図り看護

する。

服薬しているご利用者について、内服薬・外用薬ともに医務室にて保管し適宜配薬を支援する。副作用の観察を行い異常時には速やかに主治医へ報告を行い適切な指示を受け対応する。

5) 健康の保持増進

ご利用者が現在の健康状態を維持し、身体機能の低下を防ぎ、快適に過せる生活環境を提供する。

各種行事（スポーツ大会、レクリエーション）、ラジオ体操の推進、居住棟の湿度・温度調節、換気・採光への配慮を行う。

大掃除 年3回（5・8・12月）実施

6) 感染症の予防

職員・ご利用者ともに手洗いうがいの徹底を促し感染症の予防を行う。感染症対策委員会において、その都度予防対策を話し合い、その啓蒙に努める。

インフルエンザワクチン（希望者） 年1回

園舎、トイレ、洗面所の消毒は基本的に毎日行う。

7) 平成26年度医療事業計画

1. 健康診断 4月・10月の予定

2. 体重・血圧測定 毎月1回

3. 生活懇談会（医療・栄養の相談支援） 毎月1回

4. インフルエンザワクチン 希望者のみ

日程については、町立病院と打ち合わせの予定

5. 北広島メンタルクリニック・加藤歯科・江別皮膚科クリニック各医師の往診。

6. 感染症対策委員会を随時開催する。

7. 日中の通院支援、傷病者の看護を行う。

6. 栄養管理・支援

1) 基本方針

食事は、ご利用者にとって毎日の楽しみの一つである。食事の楽しさを感じていただき穏やかな時間を過ごせるようにするために、栄養面での配慮はもちろんのこと、個々の嗜好や身体状況に配慮し、食材も旬のものを取り入れ、季節感のある献立にする。また心のこもった安全で喜ばれる調理、丁寧できれいな盛り付けをする。これを以下の2)～8)

で具体化し、給食運営会議（職員・業者・ご利用者代表）により協議する。

2) 目的

- ① 年齢や性別、活動量を考慮し、栄養のバランスのとれた食事を提供する。
- ② 毎日の食事を通して、正しい食習慣が身につくよう助言及び支援する。
- ③ 栄養と運動の効果を教え、健康的な体づくりを目指す。
- ④ 糖尿病や高脂血症などの生活習慣病予防を心がけるよう助言及び支援する。
- ⑤ カロリー制限、塩分制限のある方や嚥下困難の方などには、個々の症状に合わせた献立を考え対応策を講じる。
- ⑥ ご利用者の年齢が幅広いので個々に配慮した献立を考える。

3) 献立

- ① 日本人の食事摂取基準より、年齢、性別、生活活動強度を考慮し、施設としての適切な栄養所要量、食糧構成を設定する。食糧構成では、成人施設であり、年齢や生活習慣病を考慮し、給食での菓子類は設定していない。
- ② 献立の内容は偏らず、家庭的な料理を取り入れるよう配慮する。季節感や地元農産物を利用した献立づくりを心がける。
- ③ ご利用者に満足していただけるよう、素材や調理法を変えての選択メニューを実施する。また、成人の日やひな祭りなどの年中行事や誕生月には特別食を行ったり、元旦にはおせち料理を囲むなどの行事食も行う。

4) 嗜好調査

- ① 個人の嗜好を把握するため、聞き取り、観察、アンケート方式により嗜好調査を実施する。
- ② 毎食ごとの残菜量を計量し、嗜好や適量の調査を行い、献立作成に活用する。

5) 適温給食

温かいものは温かく、冷たいものは冷たいまま、おいしい状態で食べていただけるよう盛り付け時間の調整を行い、適温給食に努力する。また、食欲をそそるような盛り付け、食器の使い方などにも工夫していく。

6) 疾病への対応

① 肥満・高脂血症

- ・肥満の危険性を理解してもらうため栄養支援を行い、予防、防止に取り組む。
- ・食事については、主食の量、副食の調理法等個々の状態により配慮していく。
- ・油脂を使用する時は、動物性油脂よりも不飽和脂肪酸の多い植物性油脂を使用する。
- ・運動の効果や健康的な体重の維持の重要性の理解をはかる。
- ・特に肥満傾向が強い方、コレステロールが多い方には、揚げ物を焼物や煮物に変えるなど、脂質摂取を控える工夫をする。

② 糖尿病

- ・医師から指示カロリーがある場合はそれに従い、低カロリーでも満足できる献立となるよう工夫する。
- ・ノンオイルドレッシングや低カロリー甘味料を使うなど見た目が変わらなくても低カロリーにできる工夫をする。

③ 高血圧

- ・塩分の多い食材を控える、減塩醤油を使うなど減塩に努める。

④ 貧血

- ・偏食による貧血や、女性特有の鉄欠乏による貧血を防ぐためにも、鉄含有量の多い食品や吸収を助けるビタミンCの摂取を心がける。

7) 栄養支援

① 食品と栄養

食品やそれに含まれる栄養について興味をもたせ、食事が満腹感を得るだけのものではないことを意識づけていく。

② 食事と健康

日々の食事から、主食、汁物、主菜、副菜がそろったバランスのとれた食事を摂ることを身につけてもらう。またいろいろな栄養素を摂取することで健康を維持していくことを知ってもらう。

③ 生活習慣病予防

生活習慣病の危険性、予防法を知ってもらう。

④ 衛生管理

食中毒予防とあわせて、食事前の手洗いやうがいをを行う。

⑤ 食事のマナー

基本的な食事に対するマナーを身につけるよう支援する。

8) 平成26年度事業計画

1. 給食運営会議 毎月1回
2. 生活懇談会（医療・栄養指導） 毎月1回
3. 嗜好調査 年2回
4. パンバイキング 月1回 誕生日膳 月1回
5. 行事食
新年会・成人祝賀会、節分、ひな祭り、開園記念日、端午の節句、焼肉パーティ、クリスマス、忘年会、もちつき、おせち料理 など
6. 夏季の暑い日には、かき氷を提供する。

7. 余暇支援

生活の中で自由時間の占める割合は大きく、この余暇時間をどのように活用するかを支援し、楽しみと潤いのある生活を見出していけるよう努める。余暇支援としては生け花・茶道、パークゴルフ、調理実習等の各クラブ活動と共に、映画や音楽鑑賞、ゲーム、園芸、施設外のサークル活動参加などを用意し、ご利用者の趣味、特技により個々の余暇支援を行う。

8. 地域生活移行にむけての支援

- 1) グループホームの新規開設準備を早急に進め調整を図る。地域生活の中でそれぞれの課題を明確にしながら、街の中での安定した生活が定着するよう希望者による宿泊体験を組み入れ支援する。
- 2) ご利用者・保護者に対しグループホームに関する情報や資料の提供を行なうとともに地域生活に関する相談に応じる。
ご利用者・保護者にグループホーム見学の手続きを設ける。
- 3) 「ハイツひまわり」や自立訓練支援センター「ふれあい」の設備や機能を有効に活用し、ご利用者がより地域生活、家庭生活に近い形での生活訓練に取り組む。
- 4) 火気取扱いや避難訓練の実施、電気設備使用における安全教育と事故防止の意識を高める。調理実習の回数増や余暇の充実、必要な連絡や相談と自主性を尊重した支援を行う。

9. 事故防止と安全対策

- 1) 目的
ご利用者には特別の保護、支援が必要であり、日常生活訓練において自ら身を守ることは不十分なものが多いので、次の事項により事故防止と安全に努める。
- 2) 事故防止策

- ア) 機械器具の操作、取り扱いに注意する。
- イ) ガラス、薬品、各種スイッチ、ガス器具、マッチ、暖房器具など常に注意を払い、事故の原因にならないようにする。
- ウ) 無断外出には特に注意し、ご利用者の状況、人員の把握、点呼などにより事故のないよう努める。
- エ) 川、沼、貯水池など、水による事故のないよう注意する。
- オ) 情緒不安による喧嘩、いたづらが事故にならないように注意する。
- カ) 園内外での交通事故のないよう注意する。

3) 安全対策

- ア) 障がいの程度に応じて安全教育を推進する。
- イ) ご利用者個々の実態をよく知っておくよう努める。
- ウ) 安全であることを確認する。
- エ) 救急、応急処置に対する研修に取り組む。
- オ) ご利用者には交通規則を教育する。

10. 職員研修

社会福祉協議会や知的障がい者施設協会の研修会の他、その他団体の研修会や、自閉症援助技術研修会の活動には出来るだけ多くの職員が参加し、支援技術の知識の習得に努める。職員の自己啓発を目的として、福祉関係の資格取得に際しては積極的なバックアップ体制をとる。

研修会後には、会議等で研修報告などを常に行い、職員の意識改革や働く意欲の増進、ご利用者サービスの質向上に努める。

11. 職員会議、支援員会議、個別ケース会議、ケア会議、給食会議等の開催

法人・施設の重点方針に従い事業を推進するため、理事会で審議検討し、毎月必要に応じて各会議を開催し、統一した支援を行う。

12. 地域交流の推進

地域行事への積極的な参加により、社会生活地域交流の幅を広げる。行事だけでなく各種ボランティアの要請を行い、地域における障がい者への理解を深める。

13. ボランティアの開拓と育成

ボランティアの重要性とその活動や効果を再認識し、事業所への積極的な受け入れを行なう。

- 1) 町内のボランティアサークルに年間行事予定等を送付するなどの働き

かけにより、事業への理解を求め協力を要請していく。

日赤奉仕団・北町福祉部会・空知信用金庫

ボランティア活動登録者連絡会・個人ボランティア

2) 福祉教育推進のため、小中高生のボランティアを積極的に受け入れる。

14. 防災計画

常に、災害防止に努め、火災や地震を想定し、月に1回避難訓練、年2回総合避難訓練（検証を含む）を行い、消火器の実施訓練と指導を消防署職員より受ける。

又、毎月防災対策規程に基づき、ご利用者と職員で自主点検・防災設備点検を行う。

15. 職員研修計画

開催月	研 修 名	主 催 者	人数
26 年			
5 月	全道施設長セミナー	北海道知的障がい福祉協会	1 名
	新任職員マナー研修	北海道社会福祉協議会	1 名
6 月	全国施設長会議	日本知的障害福祉協会	1 名
	空知知的障がい福祉協会職員研修会	空知知的障がい福祉協会	3 名
	防火管理者講習会（甲種）	日本防火防災協会	1 名
	施設内研修 救命救急講習会	南幌めぐみ学園	全員
7 月	全国施設士セミナー	全国福祉施設士会	1 名
	社会福祉法人経営者セミナー	北海道社会福祉協議会	1 名
	北海道知的障がい関係支援員研修会	北海道知的障がい福祉協会	2 名
	全国グループホームケアホーム等研修会	日本知的障がい福祉協会	1 名
	障がい者虐待防止・権利擁護指導者養成研修	北海道知的障がい福祉協会	2 名
	新任経理・総務担当者の為の基礎研修	北海道社会福祉協議会	2 名
8 月	社会福祉法人ブロック研修会	北海道社会福祉協議会	1 名
	空知地区保健医療部会宿泊研修会	空知知的障がい福祉協会	1 名
	特定給食施設等従事者研修会	空知総合振興局	1 名
	グループホーム研修会	北海道知的障がい福祉協会	2 名
9 月	空知知的障がい福祉協会新任研修会	空知知的障がい福祉協会	2 名
	全国日中活動支援部会施設長研修会議	日本知的障がい福祉協会	1 名
	施設長実学講座	日本福祉施設士会	1 名
	法人役員・職員視察研修	南幌苑・南幌めぐみ学園	役員・職員

開催月	研 修 名	主 催 者	人数
10 月	職員施設研修（めぐみ会合同）	南 幌 め ぐ み 学 園	6 名
	全国生産活動・就労支援部会職員研修会	日本知的障がい福祉協会	1 名
	北海道知的障がい関係支援員研修 I	北海道知的障がい福祉協会	2 名
	南空知感染症予防研修会	空 知 総 合 振 興 局	3 名
11 月	施設職員研修 感染症予防勉強会	南 幌 め ぐ み 学 園	全員
	北海道福祉士会ブロック研修会	北 海 道 福 祉 施 設 士 会	1 名
	栄養士調理員研修会	空知知的障がい福祉協会	1 名
	施設相談員専門研修 B	北海道社会福祉協議会	1 名
	栄養士専門研修	北海道社会福祉協議会	1 名
	全国日中活動支援部会職員研修会	日本知的障がい福祉協会	1 名
	看護師専門研修	北海道社会福祉協議会	1 名
	社会福祉法人管理運営セミナー	北海道社会福祉協議会	1 名
	医療栄養支援セミナー	北海道知的障がい福祉協会	1 名
	12 月	権利擁護セミナー	北海道知的障がい福祉協会
法人役員・施設長専門研修		北海道社会福祉協議会	1 名
虐待防止権利擁護研修会		北 海 道 保 健 福 祉 部	1 名
空知職員研修会		空知知的障がい福祉協会	3 名
施設運営専門研修		北海道社会福祉協議会	1 名
施設長実学講座		日 本 福 祉 施 設 士 会	1 名
施設内研修 虐待防止・権利擁護		南 幌 め ぐ み 学 園	全員
支援員研修会 II		北海道知的障がい福祉協会	1 名

開催月	研 修 名	主 催 者	人数
27年 1月	幹部職員研修会	北海道知的障がい福祉協会	2名
	全国障害者支援部会研修会	日本知的障がい福祉協会	1名
2月	社会福祉施設経営協会研修会	北海道社会福祉協議会	1名
	全国社会就労センター研修会	全国社会就労センター協議会	1名
3月	全道施設長研修会	北海道知的障がい福祉協会	1名
	空知宿泊幹事会	空知知的障がい福祉協会	1名
※	その他必要に応じて研修に参加させる。		

16. 日課表

時 間	日 課
6 : 3 0	起床、床上げ、洗面
7 : 0 0	園内清掃
7 : 3 0	朝食
8 : 4 5	職員朝礼
9 : 0 0	ラジオ体操
9 : 0 0	園内清掃、消毒
9 : 3 0	活動準備、身だしなみ、居室確認
9 : 4 0	午前日中活動開始
1 1 : 5 0	午前日中活動終了
1 2 : 0 0	昼食、昼休み
1 3 : 0 0	午後日中活動開始
1 4 : 1 5	休憩（1 5分間）
1 5 : 0 0	入浴
1 5 : 4 5	生活支援、ブラッシング、洗濯、居室清掃
1 6 : 0 0	午後日中活動終了
1 6 : 3 0	運動タイム（2 0分）
1 7 : 0 0	職員ミーティング
1 8 : 0 0	夕食、余暇
1 8 : 1 5	入浴
1 9 : 0 0	ホームルーム、点呼、余暇
2 2 : 0 0	就寝
<p>備 考</p> <p>日曜、祭日は7 : 0 0起床</p> <p>土曜、祭日前夜は2 3 : 0 0就寝</p> <p>入浴は、月、水、金曜日は男性 火、木、土曜日は女性</p> <p>夏季等必要に応じて随時シャワー浴あり</p> <p>土曜日は買い物実習等を計画、実施する</p>	

17. 生活支援

単 元	支 援 内 容
起床・就寝	<ul style="list-style-type: none"> ・時間になったら速やかに起きる。 ・「おはよう」の挨拶をする。 ・寝具をきちんとたたみ、押入れに入れる。 ・パジャマに着替え衣服をきちんとたたむ。 ・他ご利用者に迷惑をかけないよう静かに寝る。
衣 服	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもきちんと、身だしなみを整える。 ・脱いだ衣服はきちんと片付ける。 ・汚れた物は、洗濯し、きれいな衣服を身につける。 ・活動着と外出着、普段着等の服装の区別をする。
寝具を整理	<ul style="list-style-type: none"> ・順序正しく、きちんとたたむ。 ・布団干し（日光消毒）の励行。 ・シーツ、カバーの洗濯補修。 ・枕カバー、シーツ等が汚れたら交換する。
洗 面	<ul style="list-style-type: none"> ・歯磨き粉を適量つけて磨く。 ・口をすすぎ、うがいをする。 ・洗面器を使いタオルで顔を洗う。 ・タオルをきちんと絞って首、耳、手を拭く。 ・洗面用具は、水を切り、決められた場所におく。
清 潔	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日ひげそり、頭髪、つめの手入れをする。 ・ハンカチ、ちり紙の所持と使用。 ・衣服の着替えをする。
掃 除	<ul style="list-style-type: none"> ・窓を開けて掃除する。 ・ハタキをかける。 ・掃除用具をきちんと片付ける。 ・ゴミを捨てる。 ・物をよせ、すみずみまできれいにする。

単 元	支 援 内 容
洗 濯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 洗剤の量を正しく使用する。 ・ 洗濯機・脱水機を正しく使用する。 ・ 洗濯物を区別し（色物・無地）丁寧に洗う。 ・ 乾いた衣類は、きちんとたたんで入れておく。 ・ 使った洗濯機・バケツ等はきれいに整理しておく。
入 浴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週に3回以上入浴をする。 ・ 浴槽に入る前には素洗いをする。 ・ 洗体には石けん、ボディソープを使用し洗う。 ・ 洗髪にはシャンプー、リンスを使用する。 ・ 使用したタオル、石けん、シャンプー、腰かけ等は所定の場所に戻す
食 事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事前の手洗いを確実にを行う。 ・ 食器をしっかりと持ち、箸、スプーン、フォーク等を使用し、よく噛んで食べる。 ・ 調味料を適量使用する。 ・ 残食の処理、下膳、使用後の椅子の整頓を行なう。 ・ なごやかな雰囲気でする。
排 泄	<ul style="list-style-type: none"> ・ トイレはきれいに使用する。 ・ 下着の上げ下げはきちんと行なう。 ・ トイレトペーパーは適量を使用する。 ・ 排便後は丁寧にしっかりと拭く。 ・ 排泄後の手洗いをしっかりと行なう。

18. 年間行事計画表（平成 26 年度）

	上 旬	中 旬	下 旬	備 考
4 月	開園記念日 4/1	定期健康診断 4/9 (利用者・職員)	生活懇談会 めぐみ会定期総会 4/29 13:30 体育館 空知理事会 園内外清掃	毎月の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練 ・防災点検 ・身体血圧測定 ・スポーツ活動 ・調理実習 ・買物実習 ・精神科医師問診 ・歯科訪問診療 ・皮膚科往診 ・行事食・特別食 ・誕生日膳 希望者による観戦鑑賞ツアー コンサート プロ野球 各イベントなど
5 月	日帰社会学習 総合避難訓練・検証	道外旅行（南九州） (5/14-5/17) 空知研修会 花見（ジンギスカン）	生活懇談会	
6 月	AED 救命救急講習	職員研修会 I 6/12	生活懇談会 空知利用者研修会 6/22	
7 月	スポーツ大会 (かよえ〜る) 7/6	ソフトボール B 大会 7/13	生活懇談会 利用者交流会 7/27	
8 月	ソフトボール B 大会 予備日 8/3	保健医療部会研修会 8/23〜24	生活懇談会 南幌福祉スポーツ大会 全道職員野球大会 8/30-31 空知パークゴルフ南大会 8/31	
9 月	道内旅行 9/4-9/5 空知パークゴルフ北大会 9/7	空知職員新任研修会 9/18〜19	第 27 回学園祭 9/28 生活懇談会 総合避難訓練	
10 月	定期健康診断 (利用者・職員) 空知物産展 10/4	ボランティアフェスタ 法人役員視察研修	生活懇談会 めぐみ会・職員懇談会 空知卓球大会（北） 10/26	
11 月	栄養士研修 11/2 空知卓球大会（南） 11/9	空知地域スタッフ研修会 11/23	生活懇談会 赤い羽根 ティーボール大会 11 月(札幌市)	
12 月	もちつき 空知職員研修会 II 12/7	忘年会	生活懇談会 大掃除	
1 月	元旦 初詣	新年会	生活懇談会 厄払い	
2 月	節分		生活懇談会	
3 月	ひなまつり	園内レクリエーション 空知宿泊幹事会 3/12〜13	生活懇談会	

平成 26 年度 年間行事計画表

	上 旬	中 旬	下 旬	備 考
4 月	開園記念日 4/1	定期健康診断 4/9 (利用者・職員)	生活懇談会 めぐみ会定期総会 4/29 13:30 体育館 空知理事会 園内外清掃	毎月の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練 ・防災点検 ・身体血圧測定 ・スポーツ活動 ・調理実習 ・買物実習 ・精神科医師問診 ・歯科訪問診療 ・皮膚科往診 ・行事食・特別食 ・誕生日膳 希望者による観戦鑑賞ツアー コンサート プロ野球 各イベントなど 〔8/23 栗山町でイベント 柏木由紀子〕
5 月	日帰社会学習 総合避難訓練・検証	道外旅行（南九州） (5/14-5/17) 空知研修会	生活懇談会	
6 月	AED 救命救急講習	職員研修会 I 6/12 花見（ジングスカン）	生活懇談会 空知利用者研修会 6/22	
7 月	スポーツ大会 (かよえ〜る) 7/6	ソフトボール B 大会 7/13	生活懇談会 利用者交流会 7/27	
8 月	ソフトボール B 大会 予備日 8/3	保健医療部会研修会 8/23〜24	生活懇談会 南幌福祉スポーツ大会 全道職員野球大会 8/30-31 空知パークゴルフ南大会 8/31	
9 月	道内旅行 9/4-9/5 空知パークゴルフ北大会 9/7	空知職員新任研修会 9/18〜19 みんなあ〜と 9/11〜9/13	第 27 回学園祭 9/28 生活懇談会 総合避難訓練	
10 月	定期健康診断 (利用者・職員) 空知物産展 10/4	ボランティアフェスタ 法人役員視察研修	生活懇談会 めぐみ会・職員懇談会 空知卓球大会（北） 10/26	
11 月	栄養士研修 11/2 空知卓球大会（南） 11/9	空知地域スタッフ研修会 11/23	生活懇談会 赤い羽根 ティーボール大会 11 月(札幌市)	
12 月	もちつき 空知職員研修会 II 12/7	忘年会	生活懇談会 大掃除	
1 月	元旦 初詣	新年会	生活懇談会 厄払い	
2 月	節分		生活懇談会	
3 月	ひなまつり	園内レクリエーション 空知宿泊幹事会 3/12〜13	生活懇談会	

南幌めぐみ学園職員の誓い

1. 私たち職員は、ご利用者に対し、いかなる場合があっても暴力・暴言・人権侵害を行わず、人としての権利を尊重し擁護します。
2. 私たち職員は、ご利用者への一切の差別を自らの課題として排除し、さらに社会において利用者の理解を高める援助者として歩みます。
3. 私たち職員は、ご利用者の個性を尊重し、思いを受け止め、小さなサインも見逃さぬよう、たゆみない向上心をもって職務を遂行します。
4. 私たち職員はご利用者中心の精神に立ち、自己選択の機会や環境作りに配慮し、自己決定を促す条件整備に努めます。
5. 私たち職員は、ご利用者と共に地域で暮らすことを願い、共に生きる援助者として日々努力します。
6. 私たち職員は、ご利用者が発達・成長し、円熟するという個々の高まりを確信し、援助者としてたゆみない自己研鑽に努めます。

障がい者支援施設
南幌めぐみ学園

りようしゃ みなさま
ご利用者の皆様へ

なんぼろ がくえんしよくいん ちかい
南幌めぐみ学園職員の誓い

- わたし しかいん りようしゃ たい ばあい ぼりよく
1. 私たち職員は、ご利用者に対し、いかなる場合があっても暴力・
ぼうげん じんけんしんがい おこな ひと けんり そんちよう ようご
暴言・人権侵害を行わず、人としての権利を尊重し擁護します。
- わたし しかいん りようしゃ いっさい さべつ みずか かだい はいじよ
2. 私たち職員は、ご利用者への一切の差別を自らの課題として排除し、
しかい りようしゃ りかい たか えんじよしゃ あゆ
さらに社会においてご利用者の理解を高める援助者として歩みます。
- わたし しかいん りようしゃ こせい そんちよう おも う と ちい
3. 私たち職員は、ご利用者の個性を尊重し、思いを受け止め、小さなサ
みのが こうじようしん しかむ すいこう
インも見逃さぬよう、たゆみない向上心をもって職務を遂行します。
- わたし しかいん りようしゃ ちゆうしん せいしん た じ こせんたく しかい
4. 私たち職員はご利用者中心の精神に立ち、自己選択の機会や
かんきようづく はいりよ じ こけつてい うなが じようけんせいび つと
環境作りに配慮し、自己決定を促す条件整備に努めます。
- わたし しかいん りようしゃ とも ちいき く ねが とも い
5. 私たち職員は、ご利用者と共に地域で暮らすことを願い、共に生きる
えんじよしゃ ひ びどりよく
援助者として日々努力します。
- わたし しかいん りようしゃ はったつ せいちよう えんじよく ここ たか
6. 私たち職員は、ご利用者が発達・成長し、円熟するという個々の高
かくしん えんじよしゃ じ こけんさん つと
まりを確信し、援助者としてたゆみない自己研鑽に努めます。

しょう しゃしえんしせつ
障がい者支援施設
なんぼろ がくえん
南幌めぐみ学園